

レコード軽術

No.35
Apr 2005

4.1

The Review Virtual of DVD Video Discs

DVDガイド 2004~2005



● 今月のアーティスト

● 堀 絵 紋

● 連載

● でいすく／古田秀和

● バーチャルオペラDVDガイド



とじ込み
今月の資源保護

指揮棒のスティンウェイと呼ばれて 70 年

幾多の名演が当社のタクト
から生まれました。



このたび全モデル一新のため、秘蔵品
を特別価格で処分。旧宮家の山林から
伐採した最高級素材を使用した稀少品。

家憲などの重要書類と共に
収蔵できる豪華ボックスも
用意。末永くご使用下さい。



TSUTSUMI & SONS

伝統の指揮権・ツツミ



ザ・シンフォニーホール

お知らせ



ザ・シンフォニーホールはさらなる発展を期して、命名権売却事業を行っております。このほど、浪速の経済の発展を願い、新ホール名として、

セントレヤ
銭取哉ホール

と、いったんは決定いたしました、

大阪に対する不適切な偏見を助長するとの感想が多く寄せられ、新ホール名は白紙に戻りました。

今後もホール名に関わりなく、地元の交響楽団をはじめとする演奏会に足を運んで下さるようお願いします。



堀 絵紋 さん

堀さんは日本を代表するオーケストラのコンサート・マスターを務める一方、ソロ活動もされるといふ八面六臂の活躍。さらにライブディスク（株）を興し、今後は属するオーケストラの録音の販売にも関わるとのこと。渦中の人としてお忙しい中、お話を伺った。

——録音の販売権に関して所属のオケともめているというお話ですが、見通しはどうですか。

堀 それは想定内のことでして、解決は時間の問題です。もうオーケストラのメンバーの半数以上が私の会社と契約をすませています。販売に関する議決権を持つことになりましたから、それを行使することはあります。

——オケを乗っ取ったように言われていますが。

堀 あのね、支配とかいうものじゃないんですよ、それは。お互いやりたいことをやれてシナジー効果が出ればいいことばかりじゃないですか。みんなが得をすることを考えているのに、敵対的に考えないで欲しいものです。

——でも、オーケストラ側からは別法人にして逃げるとか、対抗策もいろいろ噂されていますね。

堀 ああ、「アテネの焦土」作戦ですか、実行されたら当然のこととして法的措置に訴えませんが、それも想定内のこと、見通しには自信を持っています。

——今話題になっていることはあまり音楽に関係ないことのように思われ、堀さんほどのヴァイオリニストがそちらに精力を注ぐのは惜しいという意見もあります。

堀 音楽家がお金儲けをして悪いことはないでしょう。音楽事業に突然首を突っ込んだように見られますが、運営資金は以前から私が株の売買で得た資金から出しています。その資金の元はといえば自身の演奏活動で得た金で、



今やっていることはいわば副産物なのです。

—— マネーゲームと芸術はそぐわないと感じる人は多いと思いますが。

堀 世の中でお金で評価されないことってありますか？ 芸術的価値があればそれを評価する人がいて、お金が動く。どんな人だってそうなりたいでしょ、お金が先か芸術が先か、そんなことは後で考えたっていいじゃないですか、それを無節操だというのはちよつと耐えられないな、ぼくは。

柔和な話し方の一方で時折鋭い視線が社長室の壁のスケジュール表に注がれる。忙しいのだ。音楽と事業、この人の頭の中はどうなっているのだろう、知らなかった世界での知らなかった才能の輝き。別世界に飛び込んだような感じでライブディスク社のビルを後にした。



[ていすく]
DISC◎Hidekazu Furuta

disc

a small optical disc on which music, data, or images are
digitally recorded for playback.

古田秀和



シューベルト 交響曲第八番
竹下景一指揮 愛知シンフォニカ
管弦楽団

今月のテーマ◎

立ち止まって考える

あわただしい日々が続いた。どうしてこんなことをしなければならぬのかと思ったり、こんなことになったのはだれのせいなのだろうとじくじく思ったり、つまらない手違いをしたり、——生活していく上でだれもが避けられないことなのだが——それらが片づいて一息ついたとき、窓辺の光景はひととき美しい。知らぬ間に木々の芽はふくらみ、屈託なく遊ぶ子供たち

の聲が花のように広がる。ああ、世界はこんなに美しかったのだと我に帰り、慰められたように気持ちになつて元氣を取り戻す。

今回紹介するのは、そのようなひとときにふさわしい、いや、生きていく過程でそのような場面に遭遇することの価値を語ってくれるディスクである。

第一楽章は冒頭で奏でられるホルンのメロディこそ「グレート」という呼ばれているこの交響曲を象徴する茫洋とした雰囲気をかもし出すゆつたりとしたテンポで始まるが、以後はかなり速いテンポで進む。躍動感に溢れ、たたみ込むようにしてコーダを迎える。独特な輝きが印象的だ。

第二楽章をはじめは基本的には同じ路線で演奏される。が、二五〇小節目の全休止の後から様子は一変する。かすかな息づかいでやっと出しているかのような弦のピチカット、それに続けてかろうじて息継ぎできたかのように奏でられる調べ。全休止の前がフォティッシモ、それも全楽器が激しく上下行する、一種カタストロフな音の渦であっただけに、直後の静けさがとりわけ印象を深める。この楽章は後に再びはじめのテーマに戻るが、激しさは消え去っている。

第三楽章は前楽章の壮烈なドラマの後で肩の力が抜けたかのように軽妙・優雅。

続く終楽章にいたってこの交響曲の理念というものが浮かび上がってくる。どこまでも続く壮麗な音のうねり。前半の楽章のような激しさはないけれど——ときおり懐古的な一瞬を見せたりするが——天上への想いと形容したくなるような淡い未来への期待感がゆつたりとしたテンポのもと満ちあふれて行く。

「グレート」は「天国的に長い」とも評され、類似したパターンの繰り返しが続く終楽章まで演奏する方

も聴く方も集中力を保持できないせいもあるのか、終楽章が高く評価されることはあまりなかった。私もこの演奏を聴くまで、もしかしたら速いテンポですぐ済めばいいのに、とさえ思っていたかも知れない。

第二楽章の全休止が大切だったのだ。殺戮と破壊を繰り返し、あわや自滅というとき、静寂の中から現れた天からの響き。ベートーヴェンだったら、「友よ、このような調べを止めて喜びの歌を……」と進むのだろうが、シューベルトは違う。ベートーヴェンは自ら歓喜を勝ち取るが、シューベルトは一步下がって自身の胸に手を当て天の声を聴く。シューベルトがこの曲の構想を得たときはまだ30歳だったろうに、まさに天からの授かりものである。

殺戮と破壊は人間社会に止まらず、すべての生命が必要とする環境を破壊し、地球全体に広がった。もうどうしようもなくなってきたとき、一步下がって何が出来るか考える。そのあと、けばけばしさこそなくても、淡い未来への期待感に満ちた世界が、どこまでも、どこまでも開けていくことだろう。

**新譜
月評** Apr 2005 **4.1**

管弦楽曲 藤田由々
協奏曲 歌咲風邪彦
ビデオ 浅墓公三
録音評 三井住友

4月号新譜月評

■ドビュッシー／交響詩「海」

アチェ・ブーケット指揮

アジア・スーパー・オーケストラ

■ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第五番《皇帝》

コンドデル・ライス (p)

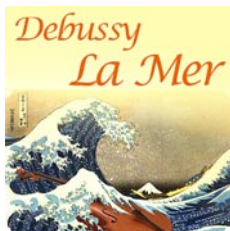
小泉変一郎指揮 永田町管弦楽団

■日本のオペラ公演ハイライト

NHK所蔵のライブラリより

(評外)

「アダージョ中西」一善のための音楽集



アチュ・プーケット指揮
アジア・スーパー・オー
ケストラ

新譜月評 The Record Keijutsu 管弦楽曲
■ドビュッシー／交響詩「海」

新譜月評
管弦楽曲

藤田由々

演奏しているのは、東アジアの10カ国で活躍しているプロ・オーケストラの団員たちが集まって結成した一回限りの臨時編成のオーケストラである。03年秋に東京で演奏会とこの曲の録音が行われた。

臨時編成であるため、アンサンブルの精度は合格点すれすれだし、バランスの悪さも否めない。また、楽器の問題か、技術の問題か、音量や音色も今ひとつ。団員それぞれの出身国の事情が表面化するのとは仕方がない。

そのためドビュッシーに特有な色彩感を表現するには壁を感じざるを得ない。

通常なら、「アジア人でもフランス音楽をここまで出来る」ことを示した記録的価値にとどまる程度の出来だが、あえてここに取り上げるのはわけがある。

最後の第三部「風と波の対話」の録音がまもなく終了するばかりになったときのことである。スタジオがゆっくり揺れた。ときは10月23日の午後5時56分。新潟中越地震が起こったのだ。スタジオがある東京はさほどの揺れは感じなかったが、外国から来た演奏者の多くは生まれて初めての体験に驚いてしまい、演奏は即中止。20分ほどの休憩の間、日本の団

員の携帯電話からインターネット上の震源地や津波情報を教えてもらい、ひと安心したというエピソードがあった。

幸い新潟では津波は起こらなかったが、海と地震といえはこの曲と、多くの団員たちは心にこのことを刻みつけて帰国した。その二ヶ月あまり後のこと、かのスマトラ巨大地震が起こったのである。災害体験が風化しないよう、また東京で見聞きした地震情報の伝え方を国の政府にも知ってもらいたい、タイやインドネシアから来た団員たちのそんな思いがこのチャリティCDの発売に至ったのである。

「録音評」 豊かな響きでかつ鮮明。管弦楽法が手に取るようにわかる。マイクのバランスに苦労した跡が感じられる。第三部の方がややマイクが遠い。理由はわからないが、収録時に微妙な位置変更があったと思われる。

新譜月評

協奏曲

歌咲風邪彦

新譜月評 The Record Keijutsu 協奏曲

■ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第五番《皇帝》



コンドデール・ライス (p)
小泉俊一郎指揮 永田町管
弦楽団

ライス初めての日本のオーケストラと協演を記録したディスクである。しなやかながら強靱なタッチで堂々たるベートーヴェンである。ソロの聴かせどころは余すところなく網羅され、演奏にあたって綿密な準備がなされたことがうかがえる。

終演後彼女は「たくさんの方の協力の結果すばらしいパートナーシップのもとで演奏できたことを感謝する」とメッセージを残してアメリカへ帰っていったが、内情はそういうものではなかったようだ。

ゲネプロではリハーサルするとき決まったかに思われたテンポをまったく覆す。前は

こうだったがと意見をいうものなら屁理屈とも言える論理ではぐらかす。機嫌を損ねて演奏をキャンセルされたら大変なので小泉はひたすら従うばかり。本番ではどうなるかと暗澹たる気持ちでスタートしたが、意外やこれがリハーサル通り。おかげで大きなアンサンブルの破綻はなく無事終了したものの、オケの楽員にとってはソロに合わせるか指揮者に合わせるか微妙な瞬間の綱渡りで大変だったようだ。

要するに、試されていたわけで、これが駆け引きというものかも知れない。ライス

『録音評』 オケ・ソロ共に鮮明で迫力充分。ただ、これが実際の演奏を忠実に反映しているかについては疑問が残る。オケのテュッティで普通ならかき消されて当然のソロパートが不自然なほど鮮明。国内盤と海外盤と異なるのかもしれないが、海外盤を聞く限り、何かの操作がミキシング時に行われた疑いがある。

は若い頃、政治の道に進むかピアニストになるか迷った時期があるそうで、駆け引きはいわば地が出たものといえるかも知れない。

「また協演したいか」と何人かの人に訊いたが、だれもが否定的。それでも少なくとも向こう4年間の協演契約は守らなくてはならないし、ご苦労様といたい。その間に小泉が常任指揮者にとどまれるか、とどまっても自己主張できるまで成長するか、永田町管弦楽団の評価がかかっている。

新譜月評

ビデオ

浅墓公三

新譜月評 The Record Keijutsu ビデオ

日本のオペラ公演ハイライト



NHK所蔵のライブ
ラリーより

ブルーレイ・ディスク（BD）による初めてのソフトである。BDはDVDの約五倍の情報量があり、画像信号はすべてハイビジョンである。収録されている最も古い画像は56年に招聘されたイタリア・オペラのもの。このオリジナルはモノクロの在来サイズの画像だが、すでに出ているDVDと比べても鮮明な画像で楽しめる。ハイビジョン化は90年代初期から始まり、半世紀にわたる画像技術の進歩を目のあたりにすることができる。

大容量の記録密度を実現したのが波長の短い青色レーザー・ダイオードである。

ディスクの材料に現在のプラスチックを使う限り、使える波長の限界まで短くなった。つまりブルーレイ・ディスクで光ディスクの進歩の一つの山に到達したと見ることも出来る。ブルーレイ・ディスクがDVDを飛び越えてCDの次のメディアとなるのか、今後の展開が興味深い。

収録されている内容については、すでに定評のあるものばかりで、あえて言及しないが、価格の付け方で不満を一つ。

このディスク、安価なものではないことはわかる。いや、イタリア・オペラだけのモノクロDVD（二万六千円余）と

比べたら、この八万円は安いかも知れない。問題は購入時に店頭でNHKに受信料を払っていることを示すものを提出すれば半値になることだ。

相次ぐ不祥事で受信料不払いが増えて、いることを意識したやり方と思うが、そんな度量の狭さは情けない。世界に先駆けてハイビジョン技術を開発したのはNHKではないか、こそこそせず、番組製作に、技術開発に、高いモラルを持つて携わっていただき、今後のメディア戦略を生き抜いてもらいたい。

「録音評」映像信号はハイビジョンといえども、その技術がなかった頃撮影された古い画像は当然ながら低い解像度。大画面ではそれらの観賞には苦痛が伴う。最新の高画質の映像と同居する歴史的画像の扱いは音だけの場合と異なる問題がある。

隠された歴史の真実

問題の書・いよいよ発売



ブランデンブルク協奏曲、無伴奏ヴァイオリンのための
パルティータとソナタ、無伴奏チェロ組曲など幾多の名曲を
残しながらケーテンの楽長を辞めた真の理由は何か？

最大の理解者レオポルド侯が音楽好きな后を選べなかった
ことに目を付け、病に倒れた后にまつわる悲劇を洗い出す。
なんと、譜面には意外な暗号が秘められていた！

音楽好きな推理作家の鋭い筆致は現代にも通じること必至。

携帯プレーヤーもヴィジュアルの時代が到来



電車の中でも音楽を聴きながらジャケットをながめたり解説を読んだり出来ます。本年中に対応ヘッドホン・ステレオ 100 機種を目標。



ほとんどの部分は 3mm の薄さ。

画像が表示されていないときのディスプレイ面は鏡面状で手鏡としても使えます（男性は駅では使ってはいけません）。

Audio & Visual

Vegusa

特設記事

バーチャル・オペラ DVD ガイド

今日残っている歌劇や劇音楽の名作の裏で諸般の事情で企画のみに終わり、作曲の手が付けられないまま終わったものも多い。もし作品になっていたらどのようなようになったか、既存の作品から想像して構成されたオペラ・ハイレイト集が出た。

ベートーヴェン 「アテネの焦土」

「トルコ行進曲」で有名な「アテネの廃墟」ではなく、作曲当時はこちらの台本で上演

されるはずだった劇音楽。敵が攻めてくる前に自国を焦土化して侵攻のメリットをなくしておこうという作戦。このようなことをする専制君主の元では国民が可哀想だというベートーヴェンの拒絶反応により台本が書き換えられた。

ワイル 「三株オペラ」

今日知られている「三文オペラ」の前身。株の売買や企業の吸収合併に絡む話が多く、一般には難解といわれ、よりすっきりした話にそぎ落とされ、今日に至った。原作の不評の原因はほかにもあり、一説にはマネーゲームをしている男役が主役を食うほど出過ぎるうえ、初演の際に演じた役者が美男ではなかったことがいわれている。

バルトーク 「ブルー・ナイト」

「青ひげ公の城」の改作になるはずだった作品。「青ひげ公」は、好きな女性を求め続けては立てこもるといふ、異様な性格を持った公爵の元で不気味ともいえる男女の心の動きを描いたもの。台本作者は結末が暗くなるのをきらって「青い騎士」が現れてとらわれの女性を救うことに改められた。しかし、このありきたりのストーリーでは作曲者の了解が得られず、翻案は日の目を見なかった。

ドニゼッティ 「愛の毒薬」

今日よく知られている「愛の妙薬」は惚れ薬を使った喜劇だが、これは別バージョンの悲劇。心変わりした恋人に毒薬を盛って殺し、自らも狂乱状態になって死ぬという物語。「ボイズン・ピル」という題名で上演されたが、

作曲者にとっては「ランメルモールのルチア」と内容や配役が重なるため、オペラ化は実現しなかった。

ビゼー 「セビリア・ファイナンス」

有名なオペラ「カルメン」では、セビリア地方に根拠地を持つ密輸団が登場する。カルメンに捨てられたくないホセは渋々入ったことになっている。しかし、「セビリア・ファイナンス」では、ホセは密輸団の幹部に出世、闘牛士エスカミーリョにも臆せず堂々と渡り合う。密輸で得た高額な金の貸し借りは高利回り・高リスクで、エスカミーリョが引つかかって大損する。標題の「セビリア・ファイナンス」はそのような融資を総称する株式用語にもなった。

指揮者より怖い？

間違った声をランプで知らせる監視器登場



自分の出した声の音量・音程・リズムが周囲と違っていると赤ランプが光ります。



欧州の有名少年合唱団でも採用。全員が胸ポケットに入れて練習中。

外した子の赤ランプ



指導者の耳が悪いと本番がこのように

独占販売

卒業式の君が代の声量指導に採用決定
町田市教育委員会

地球温暖化防止のための京都議定書発効

これからはC Dにもマークが付きます。



C Dの生産と処理のために発生する二酸化炭素の量を示します。



音楽を聴いているうちに心拍数と呼吸回数が増えることによる二酸化炭素排出量を示します。

両方で6個以内に収まらないC Dは処分しましょう。

C D引換券

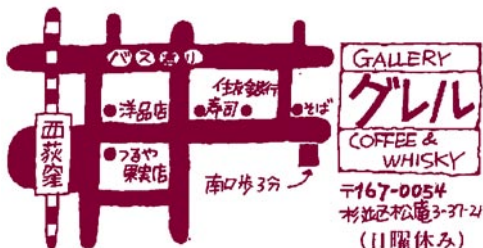
不要なCD 5枚と本券でご希望のC Dと交換します
オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2005.4.1

もう一杯、音楽もアンコール

「レコ軽」発祥の地「グレル」

創立記念日特別イベント



お世話になっているサティ
魚店のご主人の特別講座

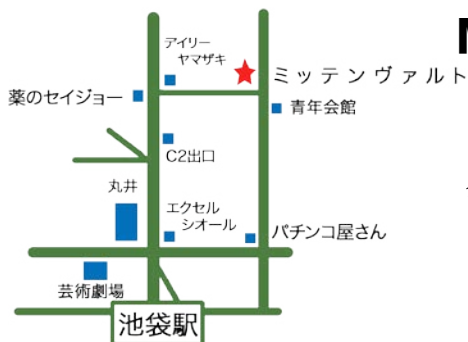
ナマコについて

甲殻類について

柄眼鏡について

特製ドリンク付き

MITTENWALD



移転しました

CD高価買取

ミッテンヴァルト

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~mittenwald/>

静謐、月の光。音楽。

BAR

大鴉 《お、がらす》

バッハを聴きながらスコッチを、
モーツァルトに浸りながらワインを……

喧噪を離れて、クラシック音楽を
ゆっくりお楽しみいただけます。



大阪市住吉区帝塚山中 3-7-7 ミューズコート帝塚山 TEL06-6672-8777

編集後記

今号の制作中、マスコミの話題はライブドアとフジTVのせめぎ合いのことばかり。そのうち、こんなことは日常茶飯事になるかも知れないのに、何か大事なことを見落としていることはありませんかねえ。ネタ選びに苦勞してしまいました。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを<http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa>で見ることができます。36,000 を超えるアクセスに感謝しております。

レコード軽術 '05 年春号 (通巻第 35 号)

2005.4.1 第 1 刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町 539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

